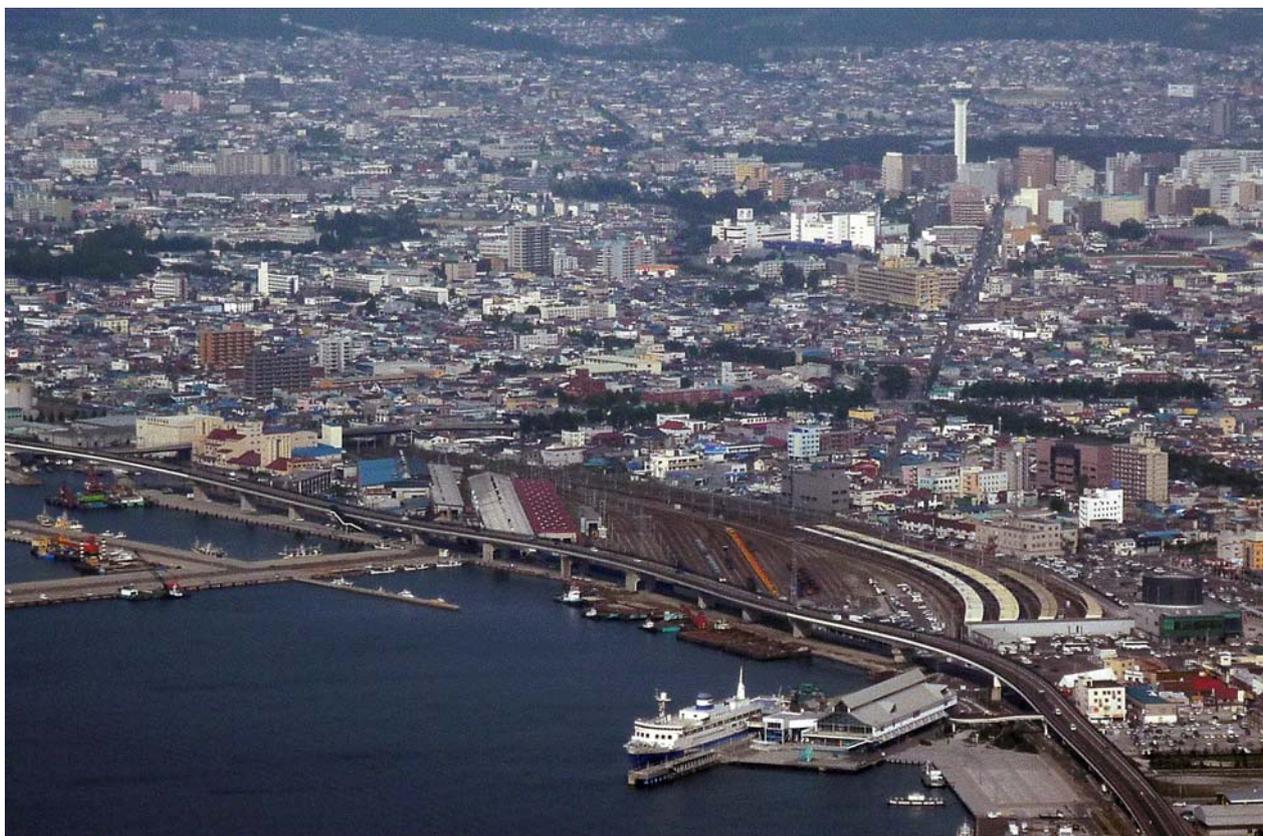


第29回土木史研究発表会（函館開催） ご参加の皆様へのご案内

日時：平成21年 7月 4日（土） 10:00～18:00
5日（日） 9:00～16:00

会場：北海道教育大学教育学部函館校講義室
〒040-8567 北海道函館市八幡町1番2号

1. 会場校までの市内の交通ご案内
2. お昼の食事および昼休憩のご案内
3. 研究をご発表される皆様へ
4. 各セッション司会者の皆様へ
5. 連絡、お問い合わせ先



1. 会場校までの市内の交通ご案内

会場の北海道教育大学函館校は、函館の市街地、五稜郭の近傍にありますが、古い住宅地でもあることから、公共交通機関が不便なところにあります。会場においでの際にはお気をつけ下さい。

(1) 函館市電・五稜郭公園前電停から

徒歩でおよそ 15～20 分かかります。添付の地図をご参考ください。

(2) バスのご利用

① 函館駅前から

- ・ 函館バス・函館駅前 2 番乗り場より「昭和ターミナル行 (田家町, 赤川通経由, 系統番号 4 番)」に乗車。「教育大前」にて下車。
- ・ 函館バス・函館駅前 6 番乗り場より「桐花通中央・昭和営業所方面行 (白鳥町, 高台通経由 (系統番号 27 ループ 106))」に乗車。「教育大通 (きょういくだいでおり)」にて下車。グラウンド側から入ります。
 - ・ ご注意:似たような系統番号で、大回りをするバスがあります。27 ループ 106 であることを確かめるか、教育大通先回りかご確認の上乗車ください。
- ・ 函館バス・函館駅前 2 番乗り場より、「香雪園・滝沢町 (函館大学・深堀中学経由 (系統番号 14))」に乗車。「宮前町」にて下車 (乗車時間約 8 分)。下車後徒歩 8 分
 - ・ 8:11, 8:36, 9:26, 10:11, 12:01, 13:11, 14:11, 15:11

② 五稜郭方面から

- ・ 函館バス・五稜郭前 (ニッセイ五稜郭ビル前) より「系統番号 27 ループ 106」「五稜郭ループ 27」「35-2」いずれかに乗車。「教育大通 (きょういくだいでおり)」にて下車。グラウンド側から入ります。
 - ・ 7:43, 8:23, 8:43, 9:03, 9:23, 9:50, 9:58, 10:15, 10:43, 11:05, 11:30, 11:55, 12:13, 12:20, 12:45, 13:35, 13:43, 14:00, 14:25, 14:50, 14:58, 15:15, 15:43

(3) タクシーのご利用

① 駅・空港等からの所用時分と料金 (目安)

- ・ 函館空港～北海道教育大学函館校 約 20 分, 小型車でおおよそ 2,500～2,800 円
- ・ 函館駅前～北海道教育大学函館校 約 10 分, 小型車でおおよそ 1,000～1,100 円
- ・ 五稜郭電停～北海道教育大学函館校 約 7～10 分, 小型車でおおよそ 800～1,000 円

② クレジットカードが使えるタクシー会社

- ・ 函館タクシー株式会社 : 配車室 TEL : 0138-51-0168
- ・ 道南ハイヤー株式会社 (スマイルタクシー) : 配車室 TEL : 0138-46-1100
- ・ 金星函館ハイヤー株式会社 : 配車室 TEL : 0138-41-6131

(4) 自家用車, レンタカーのご利用

大学正面入り口右側, 左側に駐車場があります。また, 実習工場側にも駐車スペースがあります。



◆「JR函館駅前」→「教育大学前」(函館バス)時刻表

・函館駅前2番のりばより番号4

「昭和ターミナル行(田家町、赤川通経由)」に乗車。

・「教育大学前」にて下車(所用時間約12分)

	JR函館駅前発→教育大学前	
	7/4(土)	7/5(日)
7	36	
8	44	44
9		
10	59	59
11		
12	36	36
13		
14	22	22
15		
16		
17	22	22
18		
19	19	19

◆「教育大学前」→「JR函館駅前」(函館バス)時刻表

・教育大学前より番号4

「函館駅前行(ガス会社前経由)」に乗車。

・「函館駅前」にて下車(所用時間約12分)

	教育大学前→JR函館駅前発	
	7/4(土)	7/5(日)
7	24	
8	32	32
9		
10	47	47
11		
12	24	24
13		
14	10	10
15		
16	10	10
17		
18	7	7
19		

◆「JR函館駅前」→「教育大通」(函館バス)時刻表

・函館駅前6番のりばより番号27グループ106

「桐花通中央・昭和営業所方面行(白鳥町、高台通
経由)」に乗車。

・「教育大通」にて下車(所用時間約17分)

	JR函館駅前発→教育大通	
	7/4(土)	7/5(日)
7	10 30	10 30
8	10 30 50	10 30 50
9	10 35	10 35
10	00 50	00 50
11	15	15
12	05 30	05 30
13	20 45	20 45
14	35	35
15	00 50	00 50
16	10 30 50	10 30 50
17	10 50	10 50
18	30	30
19	20 50	20 50

◆「教育大通」→「JR函館駅前」(函館バス)時刻表

・教育大通より番号106グループ27

「函館駅前行(五稜郭経由)」に乗車。

・「函館駅前」にて下車(所用時間約17分)

	教育大通→JR函館駅前発	
	7/4(土)	7/5(日)
7	30	30
8	10 30	10 30
9	10 30	10 30
10	23	23
11	13 38	13 38
12	03 28	03 28
13	43	43
14	08 33 58	08 33 58
15	48	48
16	13 30 50	13 30 50
17	10 50	10 50
18	10 30	10 30
19	10	10

2. お昼の食事および昼休憩のご案内

(1) 食堂などがありません。ご注意ください

大学周辺は住宅地のため、歩いて 10 分以内には土・日に食事（昼食）ができるところがありません。大学生協の食堂もお休みです。

そのため、五稜郭公園周辺（徒歩 15～20 分）まで行かなければなりません。お昼はあらかじめ土木史研究委員会ホームページのお申込で事前予約するか、当日の朝 にあらかじめご用意されることをお勧めします。

(2) 昼休憩での土木学会映像コンクール入賞作品の上映

お食事は、休憩室（第9講義室）などをご利用ください。

なお、第2講義室では、お昼休みに土木学会映像コンクール入賞作品の上映を行う予定です。



北方教育資料館

(3) 北方教育資料館の見学

旧師範学校時代の校舎を移築、一部保存（登録有形文化財（建造物））した建物です。

現在、北方教育資料館として、旧師範学校時代から学芸大学、教育大に至る歴史資料の展示を行っています。

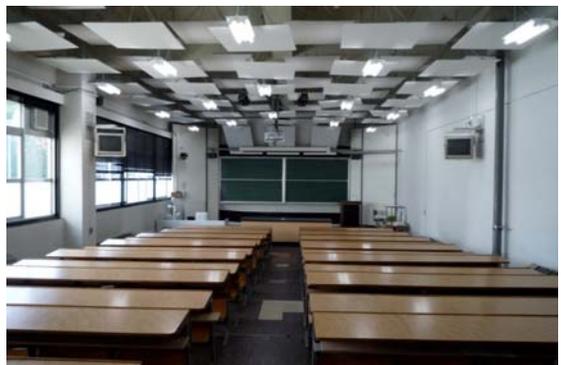
お昼の休憩時に見学を希望される方はお申し出ください。

3. 研究をご発表される皆様へ

(1) 研究の発表時間について

各セッションとも、全ての論文は、下記の時間配分によって講演を行います。

- ・ 講演発表 15 分
- ・ 質疑応答 10 分
- ・ 計 25 分



第2講義室

(2) 発表会場について

・ 第2講義室

定員 110 名の階段教室です。液晶プロジェクターが設置されています。(写真)

・ 第5講義室

定員 75 名で、個人用の机・椅子の通常教室です。大画面液晶テレビが設置されています。(写真)



第5講義室

(3) 発表用の機材について

・プロジェクター等

第2講義室：液晶プロジェクターが使えます

第5講義室：大画面液晶テレビが使えます

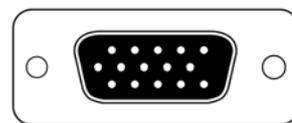


図-1 ケーブル端子

・パソコン

各自でご用意ください。ご用意が難しい場合には、開催校委員までご相談ください。

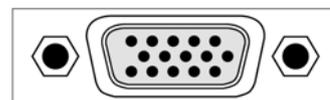


図-2 パソコン端子

・パソコンとプロジェクターとの接続

会場の液晶プロジェクターとは、図-1に示すような端子付きケーブルを用いて、各自のパソコン端子(図-2)を接続していただきます。RGB以外の異種端子のパソコンをお持ちの方は、ご確認のうえ、アダプター等をご用意下さい。

・フィルムスライド投影機, OHP

フィルムスライド投影機についてはご用意できません。

OHPにつきましては、ご相談に応じます。

(4) 会場, 機材についてのお問い合わせ先

開催校委員 今 尚之(北海道教育大学札幌校)までお願いします。

電子メール : nowkon@nifty.com

携帯電話 : 090-3773-3256

(授業・会議等で受けることができないこともあります。留守録機能をご活用ください)

(5) 審査付論文に投稿をご予定の方へ(編集小委員会からのお願い)

発表会は、審査付論文へ投稿を予定している方にとっては発表審査の場です。今後、審査付論文への投稿を予定されている方は、発表会は審査付論文の発表審査の場であることを踏まえ、ご発表をお願いします。審査付論文のご投稿にあたっては、質疑応答をもとに、内容の洗練や改善をお願いします。

審査付論文投稿時には、「発表会時の質疑応答」の提出が求められます。発表会での質疑の内容を必ずご記録されるようにお願いします。

4. 各セッション司会者の皆様へ

研究発表会は、講演論文の発表の場であると同時に、土木史研究論文集への投稿論文の発表審査の場としても位置づけられています。

発表に対する質疑等を踏まえ、有志の方には審査付き論文として再度論文をまとめていただくこととなりますので、司会者の方々には発表審査に相応しいようなセッション運営をお願いいたします。

なお本会の進行にかかわる一切の権限は司会者が有するものとしますが、下記のお願い事項についてご配慮いただきますようお願いいたします。

○ お願い事項

- ① 各セッション全ての論文は、下記の時間配分に従い講演を行います。
 - ・ 講演発表15分、質疑応答10分、計25分講演／質疑の時間配分は変更しないようお願いいたします。質疑応答の時間を十分確保するため、規定の講演時間を超過する発表者に対しては、発表の終了を強くご指示願います。
- ② 本会は7月4日(土)、5日(日)両日とも2会場で同時進行されます。プログラム編成ではできるだけ配慮いたしましたが、会場間での行き来が多くなると予想されます。したがって、各セッションの個々の論文の発表開始～終了の時刻を規定どおりに実施し、「聞きたい論文がもう終わっていた」というような事態が起こらないよう配慮をお願いします。「最初に全員の発表を済ませ、後からまとめて質疑応答を行う」ようなスタイルに変更することのないようお願い致します。
- ③ 司会者は講演開始に先立ち、時間配分、討論の方法などについて、講演者、一般参加者の双方に適宜ご指示願います。
- ④ 各会場には計時等を担当する係員(学生)を配置しますので、適宜ご指示下さい。
- ⑤ 発表会が審査付論文の投稿を考えている発表者にとって、発表審査の場であることを踏まえ、質疑応答を通じて内容の洗練や改善の方向性を示唆するなどしていただければ幸いです。また、審査付論文投稿予定の方に向けて質疑の内容を記録するよう直接講演者に連絡致しますが、セッション開始前にも一言お申し添えいただければ幸いです。
- ⑥ 過剰な内容批判や発表と関連性の少ない質疑がなされる場合があります。こうした状況が起きていると判断された場合は、正常な質疑応答の場に誘導していただくようお願い致します。

5. 連絡、お問い合わせ先

(1) 研究発表会の全般について

土木学会事務局研究事業課 二瓶貞洋

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内

TEL : 03-3355-3559 FAX : 03-5379-2769, E-mail : sniheij@jsce.or.jp

(2) 発表会の会場、機材その他について

開催校委員 北海道教育大学札幌校 今 尚之

電子メール : nowkon@nifty.com, 携帯電話 : 090-3773-3256

8. プログラム:

◆7月4日(土)

第1会場(第2講義室)		第2会場(第5講義室)	
10:00	開会挨拶 土木史研究委員会委員長 篠原 修		
10:20	【港湾・景観】 1 林千秋の歌米港湾視察と北海道の港湾にかける思い -札幌船渠論の提唱- 戸巻昭三(株)クマロンシステム設計)・神代方雅・田中敦幸・長内戦治・田中実	【交通】 9 東京の環状街路計画の変遷に関する史的研究 那須広孝(元 日本大学)・大沢昌玄・岸井隆幸	
	2 品川台場計画について -新発見の絵図より- 神吉和夫(神戸大学)・肥田周博	10 秋葉古道の成立過程と果たしてきた役割などの研究 中根洋治(昭和コンクリート工業(株))・奥田昌男・可児幸彦・早川清	
	3 動物をめぐる景観について 藤尾直史(東京大学)	11 福知山線全通後の輸送改善に関する長期的分析 波床正敏(大阪産業大学)	
	4 明治・大正期の納涼床営業者の鴨川官有地利用に関する研究 -先斗町三条・四条間を対象として- 林倫子(京都大学)・神邊和貴子・出村嘉史・川崎雅史	12 近代土木遺産の移設保存 -平木橋 村瀬佐太美(財)海洋架橋・橋梁調査会)	
12:00			
14:00	【河川 I】 5 実務面から見た明治期の常願寺川改修工事 貴堂巖(株)クイエステック)	【橋梁 I, ダム】 13 近代土木遺産としての余部鉄橋の保存と活用の取り組み 福永悦男(兵庫県県土整備部)・柳澤友樹・藤原博文・川崎雅史・岡田昌彰・	
	6 明治時代中期の天竜川・三峰川の治水関係史料 山浦直人(長野県建設部)・小西純一	14 我が国における江戸期から明治期への釣橋の展開(その7) -江戸期の古典的釣橋から明治期の鉄線橋への変遷 山根巖	
	7 河違特性に着目した札幌の中心市街地形成過程に関する一考察 岩田圭佑(熊本大学)・田中尚人	15 井川列橋の歴史とその構造解析 武部健一(道路文化研究所)・松村博	
	8 御所用水の再建 -京都市街の防火 小野芳朗(京都工芸繊維大学)	16 建設記録映画の分析による戦後日本の発電用コンクリートダム建設技術の発展 馬淵浩一(愛知文教大学)・今尚之	
15:40			
16:00	開港150年記念「函館のまちづくりの歴史と未来」講演会		
18:00			

◆7月5日(日)

時間	第1会場(第2講義室)	第2会場(第5講義室)
9:00	<p>【河川Ⅱ】</p> <p>17 遠賀川流域の土地利用の変遷に関する研究(古墳時代までの土木技術と土地開発) 松木洋忠(元 国土交通省遠賀川河川事務所)・江崎哲郎・三谷泰浩・池見洋明</p> <p>18 遠賀川流域の土地利用の変遷に関する研究(律令期の土木技術の普及) 松木洋忠(元 国土交通省遠賀川河川事務所)・江崎哲郎・三谷泰浩・池見洋明</p> <p>19 遠賀川流域の土地利用の変遷に関する研究(藩政期の河道変遷) 松木洋忠(元 国土交通省遠賀川河川事務所)・江崎哲郎・三谷泰浩・池見洋明</p> <p>20 通漕用水の維持管理における利用者の役割に関する研究 古賀由美子(熊本大学)・田中尚人・本田泰寛</p>	<p>【構築Ⅱ】</p> <p>28 カンボジア12~13世紀建造の王道石橋群 一測量データ解析を中心として 伊東孝(日本大学)・片桐正夫・重枝豊・大山亜紀子・加藤久美子・</p> <p>29 アンコールの石橋の構造的安定性について 松村博(株)ニュージェック)</p> <p>30 岡田川震災復興橋梁妻橋の設計の考え方 白井芳樹(株)オオノ)</p> <p>31 ルイ・アレレ・ドゥ・ラ・ノエによる鉄道高架橋群の設計に関する考察 本田泰寛(熊本大学)・小林一郎・星野裕司</p>
10:40		
11:00	<p>【河川Ⅲ、遺産】</p> <p>21 庄川用水の合口化 (A Study on Intake Unification of the Shougawa Irrigation Channels) 安達實(株)アステック)・門田信一・山崎篤志・日野虎彦・北浦勝・池本敏和</p> <p>22 系譜評価を主眼とした栃木県那須烏山市の近代化遺産調査 加藤祐伴(足利工業大学)・福島二郎</p> <p>23 近世以前の土木遺産から見た、都道府県ごとの地域的特徴 馬場俊介(岡山大学)・樋口輝久・丹羽野真也・山元亮</p> <p>24 戦争遺跡高知掩体壕の保存に関する研究 山崎利文(高知工業高等専門学校)・西岡建雄・山岡勇基・三木まや</p>	<p>【修復・復元、測量、地域・都市Ⅰ】</p> <p>32 城郭石垣における石材間の摩擦特性と個別要素法解析によるシミュレーション 山本浩之(ハザマ)</p> <p>33 高松城天守台解体時の力学調査と保全工法 金正信(大阪産業大学)・西田一彦・大嶋和則・玉野富雄・北園和憲・山中聡・白石建</p> <p>34 地籍測量史の研究(その2) 一地籍制度の変遷と地籍図の精度の関係について一 築瀬範彦(足利工業大学)</p> <p>35 我が国の産業遺産活用についての一考察 一(社)土木学会誌(CEI)ポータルに掲載された記事のまとめ一 西尾敏和(群馬県立高崎工業高等学校)</p>
12:40		
14:00	<p>【土木史一般】</p> <p>25 土木遺産の見学会としての活用とその教育的効果 原口征人(社)北海道開発技術センター)・今尚之・進藤義郎・進藤憲吉・小山茂・石川成昭</p> <p>26 近代産業施設としての秩父鉱山の特徴分析と映像アーカイブス化 片山大輔(埼玉大学)・深堀清隆</p> <p>27 旧北海道庁による技術協議会と北海道における技術者ネットワーク形成の萌芽 今尚之(北海道教育大学)・原口征人・進藤義郎</p>	<p>【地域・都市Ⅱ】</p> <p>36 西川緑道公園の誕生 一岡山市内用水の景観成立一 竹内晋平(岡山大学)・小野芳朗</p> <p>37 舟運都市ヴェネツィアの近代化に関する研究 一19世紀から20世紀初頭を中心一 植渡彩(法政大学)</p> <p>38 1780年代のル・アノーガル港拡張計画について 根岸美幸</p>
15:15		
15:30	<p>総括および閉会挨拶 土木史研究編集小委員会委員長 小林 一郎</p>	